SAAJ 日本システム監査人協会報

情報システムの有効性の監査について
ーその実施上の困難性についての若干の考察ー

No.461 橘和尚道

1. はじめに

昨年4月「日経コンピュータ」がシステム監査の特集を行ったが、その際実施したシステム監査のアンケート調査[1]に大変興味深い問題提起がある。それはシステム監査を継続的に実施している企業 190社（回答 700社の27%）の満足度の調査で、「満足している」は18.4%しかなく、「不満」が59%もあったということである。しかもその不満の理由の第一にあげられるのが、「情報システムの有効性や戦略性などについて監査できない」からで63.4%、「チェックだけで、今後の展開に役立つ監査になっていない」が35.7%と続くというのである。

有効性・戦略性の監査ができない理由は、この場合はっきりしていないが、例えば①監査対象に経営トップまで含まれるから監査しにくい、②このテーマではシステム部門がイエスと言わない、③システム監査人として自信がないからなど種々あろう。

いずれにしても、継続的にシステム監査を実施していながら満足せず、有効性の監査ができないので不満という回答が、これ程多いという真摯な姿勢に驚かされたのである。

何故有効性の監査ができないのか、どのような問題があり、どのように解決すべきかなど、この小論では論じつくせないが、その緒でも見つかればと以下に若干の考察を試みたい。

2. 情報システムの有効性の監査とは

システム監査の目的が、情報システムの信頼性、安全性、効率性を高めることにあることは、「システム監査基準」に明記されており周知のとおりであるが、この効率性を高めることは「(1)システムのリソースを最大限に活用すること、(2)コスト／パフォーマンスの向上をはかること」[2]と解説されていた。またその2年後に出された解説書[3]では、リソースの有効利用、コスト・パフォーマンスの向上のほかに「目的の達成度合など」が追加されている。つまり、システム監査基準でいうシステムの効率性には、この目的達成度合を意味する有効性が含まれていると言えるのである。

情報システムの有効性の監査とは、この目的達成度合を監査するもので、わが国の会計検査院の有効性検査の定義を準用すれば、「情報システムが所期の目的を達成し、効果をあげているか」どうかを監査することである。また更に会計検査院の「政策評価」の視点を参考にすると、企業の経営戦略なりシステム戦略なりを評価する視点が重要になってくる。[4]

3. 有効性の監査における実施上の問題点

上述のように情報システムの有効性の監査は、目的の達成度合の監査であるが、ここでの有効性は、採算性や能率性を超えた総合的な概念となる。従って監査の視点としては、アウトプットの品質を高め、エラーを防止する信頼性の視

点、災害や事故から情報システムを守る安全性の視点も包含したもので、情報システムの発揮するあるいは発揮すべき効果を、総合的に、大局的にチェックする視点であり、経営監査的視点ということになる。従って、その実施上の問題点としては次のようなものがある。

(1) 所期の目的の達成度合の評価

情報システムの有効性の評価は、最終的にはシステム監査人が行うのであるが、その第一次評価者は当然に情報システムのユーザとなる。従って、ユーザの満足度調査の仕事がかなりのウエイトを占め、相当の時間と労力が必要となる。またシステム部門だけでなく社内のユーザ部門が広くヒアリング対象となるので、全社的なコンセンサスが必要になってくる。この点、監査の実施がトップダウンで進められれば効果的である。

情報システムの有効性の評価尺度の問題がある。この評価尺度については、中央大学の遠山教授は、情報利用者である各階層の意思決定者の「満足」を、一橋大学の宮川教授はアウトプットがユーザにどれだけ満足を与え、受け入れられているかを評価の尺度とされているのが参考になる。[5]

この満足度の調査についてヒアリングやアンケート調査などの方法が考えられるが、その評価をできるだけ客観化、定量化するため、5段階評価などの方法で行うことも効果的である。

また更に、定量的効果と定性的効果の評価の問題があることを指摘しておかなければならない。

合理化・省力化など事務処理の効率化を目的としたシステム化よりは、顧客サービスの向上、営業支援、使い易さなどを目的としたシステム化が多くなってきている。こうなるといわゆる省力効果などとして定量的な効果として算定・評価することが難しくなる。

このような定性的効果を如何に評価するか、あるいは如何に定量化して評価するかが問題となる。これは、システムの計画段階でも、実施の可否の判断基準として問題となるが実施後のフォローとしての評価基準の問題にもなる。

この定性的効果の定量化は難しい問題で、従来は、顧客サービスの向上、競争他社との対抗上、あるいは営業支援のため等々の理由だけで、実施の可否が判断される傾向が強かった。しかしこれからは今までのように簡単には行かない環境の変化もあり、情報システムの有効性の評価の問題として、定性的効果の定量化が大きな課題となる。

なお情報システムの有効性の評価（事前、開発過程、事後）について、その組織的実施で有名な東京都のシステムアセスメント制度[6]があり参考となる。

(2) 経営戦略ないしシステム戦略の評価

情報システムの有効性を監査する場合、所期の目的のもとになった経営戦略ないしシステム戦略の評価を行わなければ、本当の監査をしたことにはならない。

もともと、システム部門は、企業の省力化、合理化に貢献してきた実績があり、効率の追求即ちリソースの有効利用やコスト・パフォーマンスの向上は当然のこととして強く、むしろそれ自体が目的のように徹底してしまう可能性がある。そこに強いリーダーシップをもった経営戦略ないしシステム戦略がなければ、効果のある、有効性の高い情報システムを構築することはできないのである。

かかる観点から経営戦略ないしシステム戦略の評価、あるいは経営の役割の評価が当然に必要になってくる。もちろんこの場合システム部門に対しても、経営の意思決定に役立つ将来シ

ステムの動向や技術情報等を提供していたかが問われることになる。

前述の会計検査院の「政策評価」を実施する機能は、その総合的な評価を通じて政策形成にフィードバックする情報提供機能である[7]とされているが、企業においても同様の機能がシステム監査にあって当然と思うのである。つまりそれは単なる政策批判ではなく、情報システムの効果実現のための提言機能である。従って監査意見は場合によっては遠まわしの表現でも良いし、口頭によるだけでも良いのである。

(3) システム監査人の問題

有効性の監査の実施に関して、システム監査人の問題が質量共に重要になってくる。上述のように情報システムに関する提言機能の役割を果たすことになり、その責任は重大である。

情報システムの有効性の監査は、情報システムを、その果たす効果を切り口として総合的に評価することになるので、一人のシステム監査人がこれをカバーすることは不可能である。複数のシステム監査人の総合力を発揮しなければならないし、場合によっては、監査部門外から援助を求め、プロジェクトチームを組むことも必要かもしれない。外部の監査人に依頼することは、費用はかかるが、それだけの効果が期待される。

4. おわりに

以上、情報システムの有効性の監査についての実施上の問題点や困難性について考察してきた。しかし極めて短時間でとりまとめたため不充分な点が多いと思われるがお許しを頂きたい。この小論が、会員の皆様の「有効性監査」の討議のきっかけにでもなり、また種々のご意見やご批判を頂ければ幸いである。

また有効性の監査は、情報システムを総合的に評価することになり、監査部門としてもやり甲斐のある仕事となるので、是非一度（何度でも）トライして、「不満」を解消して頂きたい。

〔注・参考文献〕

1）「模索の中から見え始めた日本風システム監査」、日経コンピュータ、1992.4.6.p.57

2）㈶日本情報処理開発協会：システム監査基準解説書、p.35(1985)

3）㈶日本情報処理開発協会：システム監査Q&A110、p.17(1987)

4）拙稿「損保会社のシステム監査－その実施体制と監査の視点」、保険学雑誌、第539号、pp.79～81,p.86(1992)

5）拙稿「情報システムの有効性監査の一考察」、システム監査、Vol.4,No.2,p.16(1991)

6）田崎輝男（報告）「東京都のシステムアセスメント制度について」、第5回システム監査学会公開シンポジウム、1992.10.28

7）吉江　勉（報告）「わが国会計検査院における有効性の検査」、前掲シンポジウム

〈合格者の連絡先調査のお願い〉

1月末に昨年10月に実施された第7回システム監査技術者試験の合格者が発表になりました。ついては、会員の周辺で合格者を発見（？）した時は、事務局まで至急FAX（03-3343-5820）でご連絡ください。事務局より折り返し、入会申込書を発送いたします。

システム監査人日誌

— 第3回 —

No.39 川野佳範

平成4年1月28日火曜日

ハット目が覚める。ベットの弾力性が背中に伝わってくる。“ここはどこかな？”。首を擡げ窓の方へ目をやる。まだ外は暗い。枕元の時計に目をやる。午前5時45分。

昨夜、仕事の後天神にあるトーマツの福岡事務所に戻る。福岡にはたびたび来るため福岡事務所のスタッフとも顔なじみである。気軽に挨拶を交わしたのち、みんなで食事に行こうということになり、天神のネオン街に繰り出した。福岡のこの時節はふぐやひらめが大変おいしいので“てらおか”という店で食事をすることにした。

“てらおか”で食事の際に飲んだお酒が少し残っているのか体が少し重い感じがする。“でも起きなければ”と気合いを入れ、いつものように着替える。アンダーシャツ、タイツ、ソックス、ウインドブレーカ、帽子、腕時計、手袋と身をまとい最後にマラソンシューズを履く。私は、いつでも、どこでもトレーニング出来るよう出張の際にはマラソンシューズ等をもって行くことにしている。そのため、いつも人より手荷物が多い。もう20年以上も前になるが千駄ヶ谷の国立競技場のトレーニングセンターでトレーニングを始めた頃は、出張先に5キログラムの鉄アレー2本とエキスパンダをもって行ったこともある。当時は今のように宅配便も発達してなく、また出張先にスポーツクラブのない時代であったから。

ドアを開け廊下へ。ボーイが朝刊を配っている。目と目があい気恥ずかしい感じがよぎる。エレーベータに乗り階下へ。フロントには寄らず鍵を持ったまま外へでる。冷気が頬を撫でる。吐く息は白い。冷気によって目は冴え始めたが、体はまだ堅く重い。街灯に照らされた煉瓦作りの歩道の上にシューズ跡を残してゆっくりと走り出す。

赤坂の交差点を渡り、おおよそ1分後左手にお堀越しに木々に囲まれた平和台野球場、陸上競技場が目にはいる。ここから大濠公園までは福岡市内でも景観の良いところの一つである。そして、ここは幾多の名勝負を生んだ福岡国際マラソンの舞台、最後の1キロ地点、瀬古が先頭に立ち、宗兄弟、伊東国光が最後の力を振り絞って瀬古を追う。たった3枚のロスアンジェルス・オリンピック出場の切符を得るため。あの感動的な地点でもある。

旧福岡城址のお堀に沿って更に300メートル走り左折し大濠公園への誘導路に入る。前方に濃い水墨画のように闇に包まれた大濠公園の池と柳の木々がうっすらと目に写りはじめる。

大濠公園のジョギングコースは、ほぼ2キロ。目印とする柳の木を通過するときストップウオッチを押す。時刻は6時10分。いくらかスピードをあげる。時速13キロ程度か。まだ体が堅い。ストライドも延びない。両手を下にゆっくり振り、肩の力を抜く。

1周目9分36秒。体が重くタイムが悪い。2周目9分08秒。体が少し軽くなる。3周目8分44秒。やや調子が出てきた。東の低い雲間から昇った真っ赤な暁光が山の輪郭をくっきりと描き始めた。池水面にも朝の美しさが映じている。いつもこのような素晴らしい瞬時に出会うとき、幸福感に浸ることしばしばである。そして何に対するのでもなく感謝の念が自然に湧いてくる。4周目8分12秒。少しがんばる。最終5周目。気合いを入れて走る。8分06秒。やっぱり良くない。息が上がる。8分が切れなかった。これ

では2月11日の読売勝田マラソンが心配だ。

時速12キロから10キロ程度にペースを落としクールダウンに入る。練習時は気づかなかったが話しながら散歩する年輩の男女、カラフルなジョギングウエアを身にまとい長い髪を靡かせて走る若い女性、私のようにタイムを気にしながら一生懸命している若い男性、大濠高校のサッカー部員達等さまざまな人々と行き交う。

7時半ごろ宿舎である西鉄グランドホテルに戻る。シャワーを浴び着替えて朝食に入る。朝食を取りながら日経の朝刊に目を通す。

山内と連れだって8時50分ホテルをでる。ニコニコクレジットは徒歩で5分程度で着く。本社ビルの前の歩道はニコニコクレジットの社員によって既に箒で掃かれ、水が打たれていた。一階のロビーでは、月一度ミニコンサートが開催され地元の人に解放されている。“すべての人びとに奉仕する”これが社是である。受付で昨日同様入館証をもらう。

「おはようございます。」と挨拶しつつ3階の会議室に入る。既に監査室長の力久は席に着いて仕事に取り組んでいた。「おはようございます。先ほど藤田さんより伝言がありました。トーマツさんの福岡事務所に寄ってからこられるそうです。それほど遅くならないそうですが約30分程度とのことですが。それできょうの進め方ですが如何致しましょうか。」

「先般打ち合わせさせて頂きました通り、今日からはそれぞれ業務分担を分けて行います。わたくしは企画、開発段階の監査を担当します。本日わたくしの場合、経営企画室長の宗像さんと情報システム部門長の飯塚さんに対するインタビューが中心になります。そして、それほどの時間を頂く必要はありませんが社長さんにもインタビューさせて頂きます。明日29日は、事前に実施しておきました各エンドユーザに対するアンケート調査結果に基づきまして各エンドユーザ部門の責任者等にもインタビューさせて頂きます。30日はインタビューさせて頂いた結果に基づいて関係書類すなわち常勤役員会の議事録、長中期の開発計画書、システム開発標準手続書、システム開発提案書、基本計画書、開発作業計画書等を閲覧させて頂きます。藤田は運用業務のうち業務処理統制の監査を担当します。特に汎用監査プログラムを利用しますので午前中はそのインストール作業を行います。そして午後には、各融資システムのアプリケーション・コントロールを検証するため処理の流れ、関係ファイルのデータ定義等の説明をお願いします。明日29日にＴＳＯをお借りして監査プログラムのスペックシートを作成し、コンパイルさせて実行したいと考えています。山内はコンピュータセキュリティを担当します。特にセキュリティのうちアクセスコントロール、バックアップ・リカバリーを重点的に監査したいと思います。」

その時、経営企画室の宗像と情報システム部門長の飯塚が入室してきた。経営企画室の宗像は大手証券会社系列のコンサルティング会社から株式公開業務の手腕を買われて入社してきた。米国のある大学のＭＢＡでもある。

「川野さん、紹介します。私どもの経営企画室長の宗像です。宗像さん、システム監査技術者で公認会計士の川野さんです。」

「はじめまして、宗像です。よろしく。」いかにもエリートらしく覇気があり、また容姿や背広の着こなしが洗練されていてスマートである。“このような人材がこの会社を引っ張っているのか”と思う。

「宗像さん大変お忙しいところすみません。よろしくお願いします。宗像さんには、当業界の現状と当業界を取りまくマクロ経済の動向と

それが当業界に与える影響をどのように認識されているのか詳細にお尋ねしたいのと、そして当社の経営戦略、経営計画、利益計画、資金計画それらを実現するため情報化計画をどのように考えられているのか出来る限り具体的に説明して下さい。わたくしたちは当然業務上知り得た事項に対して守秘業務を負っておりますので可能な限り詳細にお願いします。」

その時、福岡事務所所属の藤田が部屋に入ってきた。藤田も公認会計士でかつシステム監査技術者、ＣＩＳＡである。

「藤田さん、ＳＴＲＡＴＡのインストールについて運用担当の大橋さんと打ち合わせてください。」

「山内さんは、飯塚部長と打ち合わせてチェックリストに従って仕事を進めて下さい。」

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

午前中それぞれが分担し、業務を進めて行った。この段階において特に印象に残るような事柄は発生しなかった。

（つづく）

事務局からのお知らせ

＜会費振込みのお願い＞

本年度（平成５年１月１日～平成５年12月31日）の会費（正会員10,000円準会員 8,000円）を、下記宛にお振込みください。

郵便振込口座　東京　１－ 352357
加 入 者 名　日本ｼｽﾃﾑ監査人協会事務局

銀行振替口座　第一勧業銀行　北沢支店
普通　1053488
口 座 人 名　日本システム監査人協会
事務局　鈴木　信夫

会費振込に際しては、必ず会員番号をご記入願います。

新任理事紹介

平 田 哲 康

本協会の法人部会開設にともない理事を引き受けさせていただきました平田でございます。本協会には一昨年より個人会員として入会させていただいておりましたが、当社がシステム監査登録企業となったのを機会に法人部会に入会いたしました。私は現在、新潟県の長岡市に住んでおり、いわゆるＵターンにより㈱日本マネジメントアカデミーに入社いたしました。システム監査は、私がＵターン前の監査法人にいたとき以来、係わってきました。それは、数年前のシステム監査のブームの時であり、マスコミも競って取り上げました。システム監査というものに対して、過大な期待と幻想が抱かれていた時期だったように思います。あまりにもその幻想が先行した結果、着実にすすんできたシステム監査がブームの終わりとともに急速に注目をあびなくなったように思います。このように書いてきますと、なにやらバブルの終焉とともに停滞してきた日本の構図を思い起こさせますが、そのような状況のなかにも着実に定着してきた分野も多く、現在の延長線上にまだ多くの可能性があるものと信じております。

現在は、新潟県ということで外部監査の依頼もあまり無く、多くは内部監査の局面としての仕事ですが、細く長く携わってゆきたいと思っています。地理的に遠く、どこまでお役に立てるかわかりませんが、微力ながら活動してゆきたいと考えております。

皆様のご指導等、よろしくお願い申し上げます。

法人部会発足

当協会に新たに法人部会が発足しました。

去る11月24日午後3時から、東京・麹町の日本コンピュータセキュリティ株式会社の会議室に、当協会の登録企業会員の代表等9名が集合し、法人部会の第一回会合が開かれた。集まったのは、川野会長、梅津副会長、橘和理事と、各登録企業会員を代表する平田理事（株式会社日本マネジメントアカデミー）、相川理事（ＮＴＴデータ通信株式会社）、中島理事（日本コンピュータセキュリティ株式会社）、一村理事（株式会社日立情報システムズ）大島理事（さくら総合研究所）、及び波田（ＮＴＴデータ通信株式会社）であった。

第一回目ということで、メンバの簡単な自己紹介の後、相川理事と一村理事を幹事に選出した後、今後の法人部会の活動内容等について意見交換が行われた。以下主な意見について紹介する。

① 法人会員へのサービス基準として、会報の送付部数、研究会への出席人数、著書購入等の特典の付与は、原則として最大限個人会員の10人分とする。

② 法人会員を増やすために、通産省のシステム監査企業台帳登録企業に対しても、企業のトップクラスの目に触れるように当協会の会報を送付する。

③ 通産省等行政とのコミュニケーションを密にし、システム監査実施企業の要望が行政に反映できる環境作りをしたい。

④ ビジネス向けのシステム監査基準を確立する等、システム監査が単独でビジネスとして成り立つようにしたい。

⑤ 法人部会の活動の手始めに、「システム監査人倫理規定」を制定する。

⑥ 今後の活動の方向を探るために、システム監査登録企業にアンケート調査を実施する。

第2回会合は12月14日に開催され、「システム監査人倫理規定」を検討した。

検討に当たっては、昭和63年度の日本システム監査人協会発足当初の第1回及び第2回理事会において作成された「システム監査人倫理規程（案）」を基に、各種類似団体等の倫理規定を参考にした。なお、「システム監査人倫理規定（案）」は昭和63年4月発行の会報第2号に掲載されているので、参考にされたい。

検討の過程で議論された主な内容は次の通りである。

① 倫理規定の名称については、「システム監査人」、「日本システム監査人協会」、「情報処理システム監査技術者」等の意見があったが、「システム監査人」として整理した。

② 規定の及ぶ範囲としては、当協会会員限りとすることとし、目的に記載する。

③ 昭和63年案にある「監査手法・手続きの確立」は、厳しいとの意見が多く削除した。

④ システム監査の普及・啓蒙義務については、協会規約と重複するので記載しない。

⑤ 当倫理規定のＰＲをする必要性が議論された。また、関連団体でも類似規定を制定する動きがあり、調整が必要との意見があった。

その後、この案を1月18日の理事会にはかり、若干の修正を加えて2月25日の第6回通常総会に付議することとなった。

事務局からのお知らせ

〈住所変更について〉

住所変更、所属変更等がございましたら、事務局へ書面でお知らせください。

会員企業紹介

㈱日立情報システム

No.41　今井純子

情報システムのパイオニア

日立情報システムズは昭和34年、わが国のコンピュータ情報システムの草創期に、㈱日本ビジネスコンサルタントとして設立された。当初は受託計算、コンピュータシステム運営管理等の情報処理サービスを中心に事業を展開。特に官公庁の受託計算サービスや自治体の住民情報サービスでは豊富な実績がある。昭和57年には独自の大規模ネットワークを構築して、ＶＡＮ等高度情報ネットワークサービスを全国展開している。

総合力を生かしたソリューションサービス

30 余年の実績の中で、事業分野は情報処理サービスからソフトウェア開発、システム機器販売、コンピュータ関連サプライ販売にわたり、情報システムに関する総合的なサービスを提供できる体制になっている。昭和63年には通産省からシステムインテグレータの登録・認定をうけており、総合力と豊富な経験を生かしたシステムインテグレーション（ＳＩ）事業やアウトソーシングサービスを通じて顧客の問題解決に資するソリューションサービス企業を目指している。昭和62年には東証二部上場、翌年には社名を、日立グループの一員としての技術力と事業内容を前面に打ち出した現在の「日立情報システムズ」に変更している。平成４年３月末現在、資本金90億円、売上 1,098億円。社員数 4,500人、関連会社６社を擁し、北海道から鹿児島まで全国30箇所に営業、研究開発拠点を有する一大情報サービス企業である。

（多摩川システム本部）

合格ラインは95点

日立情報システムズで実施しているシステム監査は、全て内部監査である。現在のところは、受託計算やコンピュータシステム運営管理等情報処理サービスを対象に、システム監査室が実施する運用面を重視したシステム監査と、顧客向けソフトウェア開発を対象とした、品質管理の観点からの品質保証本部による開発段階の検査が、その内容となっている。今回は主にシステム監査室の監査について取材した。システム監査室の陣容は兼務を含めて34名。うちシステム監査技術者は29名。監査は、通産省の「システム監査基準」及び「電子計算機システム安全対策基準」を基礎に独自のチェックリストにもとずいて厳格に実施されている。各事業所毎に、対象個別システムについて、まず被監査部門で自己チェックを実施。その後、システム監査室のメンバー３～４名のチームで、予備調査から本調査まで延べ１週間程度かけて、チェック項目ごとに４ランクに評価する。最上ランク「良好」の数が全チェック項目に対して「システム監査基準」関係では95％以上、「安全対策基準」関係では90％以上でようやく合格点が与えられる。外部監査を行う場合は、システム監査室と品質保証本部が協調して実施することになろうが、受入態勢は十分整っているようだ。

徹底したフォローアップ

監査の結果は監査報告書にまとめられ、総合評価とともに、個別要望事項が指摘される。被監査部門は、これに対して実施時期を明示して具体的改善策をシステム監査室に提出する。改善の実効を期すため、改善実施期間は十分にとられ、半年毎に3回延べ1年半に及ぶ。各段階毎にシステム監査人によって成果の確認が行われる。現在、システム監査室による全国の事業所の監査は2巡目に入り、より高度な信頼性と安全性を目指している。

バックボーンは高信頼性

日立情報システムズには、前述のシステム監査室、品質保証本部の他にサービスの信頼性、安全性確保のための組織として、情報事業本部の中に情報セキュリティセンタがある。情報セキュリティセンタでは、受託計算やソフト開発の顧客側の情報管理のための業務、システム監査の結果のフォローアップ支援、データや成果物の輸送車（情報専用車）を現金輸送車並の仕様にすることなど、高信頼性、安全性、機密保護のための様々な施策を行っている。信頼性を何よりも優先し小さなリスクも見逃さない体制を作っている。

なくてはならないシステム監査に

システム監査に対する社会的認知はまだまだ低く、従って社会的要請も官公庁を中心に高まってきてはいるが、情報システムの発展とその重要性に比べて十分とはいいがたい。「システム監査が会計監査のように社会に根付くには、会計原則ほどの規範性をもった依拠すべき原則、実務指針としての諸規則を包含した、法定のシステム監査制度の確立が必要ではないか。このための努力を日本システム監査人協会に望みたい。」と、システム監査室の塚本章室長は言う。

会計原則は、企業会計の実務の中に慣習として発達したものの中から、一般に公正妥当と認められたところを要約したものであり、原則自体は終戦後の設定だがその背後には、商取引の長い歴史がある。戦後の生まれで、進歩がめざましい情報システムについて、普遍性をもった原則を設定することの困難さは想像に難くない。また、法定監査となれば、その法的安定性を確保する上でも、通常実施すべく監査手続を明示しておく必要がある。これも、とても難しいことだが、実務家でなければ対処できない問題でもある。知識と経験を重ね、当局に意見を具申できる協会にならなくてはならない。

あとがき

渋谷駅から徒歩3分。玉川通りに面した本社を訪問しての印象は、シンプル、クリーン、サイレント。入退管理もきっちりなされ（当り前のことだが、なかなか実行されていない。）、さすがと思った。なお本社の近くには、実験オフィス『SENSING OFFICE』がある。

（湘南システム本部）

（取材にあたっては、塚本章システム監査室長、一村義夫情報セキュリティセンタ長、社長室文書広報課の畑中英昭氏のご協力をいただきました。）

モニタ通信
ープリンストン便りー

No.356　横田由美子

光陰矢の如し。日本を離れてからもう8ケ月が経過しました。先日、今井理事から会報を送っていただきましたが、内容が充実しているのに大変驚きました。皆様のご活躍を想像して、日本にいた頃の自分の仕事を懐かしく思い出しているところです。

夫の突然のアメリカ転勤が決った約一年半前は、手探り状態で始めたシステム開発の業務監査も軌道に乗り、手ごたえを感じ始めていたところでしたので、子供と共に日本に留まることも一時考えましたが、会社（システムブレイン）の理解もあって2年間休職させてもらうことになりました。夫に遅れること6ケ月、92年3月下旬に息子（9才）と二人で、ここアメリカ、ニュージャージー州プリンストンにやってきました。

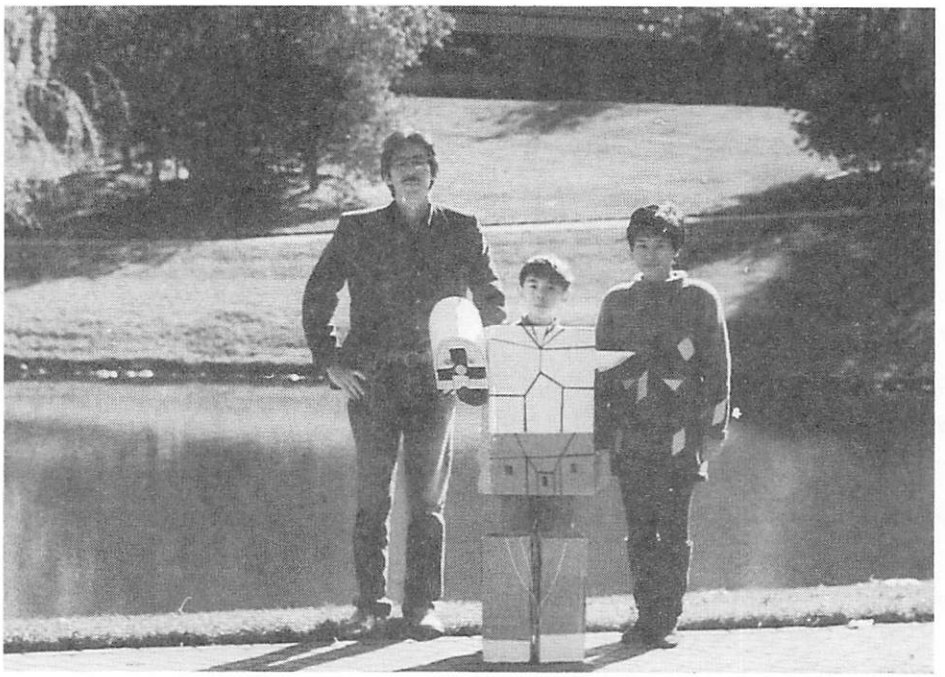
プリンストンはニュージャージー州のほぼまん中辺に位置しており、日本流にいえば、「ニュージャージー州のへそ」にあたる所です。プリンストン大学や、あのアインシュタインやフォンノイマンを擁したことでも有名な高等研究所のある静かな学園都市です。私達は外国人が多い新興住宅地に住んでいますが、旧市街地には背の高い広葉樹の木立に囲まれた洋館風の住宅が建ち並び、さしずめ日本の旧軽井沢といった趣があります。人の噂によると、作家村上春樹氏が現在このあたりで執筆活動中とか。残念ながらまだ御見かけしたことはありませんが…。

そんな落ち着いた雰囲気に加えて、ニューヨークから車で1時間半、電車で1時間という地の利もあってか、この辺には企業の研究所が集まっているようです。日本企業の研究所も夫の勤め先のＮＥＣの他にも数社あります。緯度は函館と同じぐらいで冬は厳しいですが、四季ははっきりしており、春秋の木々の美しさは目にまばゆいばかりです。全く物事を考えるにはうってつけの環境といえるでしょう。

そんな環境にありながら私の生活は物事をじっくり考えるなどとは程遠いドタバタした毎日です。慣れない英語でのコミュニケーションに加え、息子の学校（現地校と日本語補習校）の事、ボランティアー活動、各種行事への参加、家庭での接待等、何かと気ぜわしい毎日です。習慣の違いからくるとまどいがそれに拍車をかけているのかも知れません。まぁ最初の一年は試行錯誤の繰り返しということになりそうです。

今日は12月22日、プリンストンはクリスマス一色で、各家とも競いあうようにクリスマスデコレーションの飾り付けをしています。アメリカ人は楽しむことにかけては天下一品のようで、大きなクリスマスツリーを家の中に飾るのはもちろんのこと、庭の木やなんと家全体を豆電球で飾ったりするところもあって、夜その辺をドライブすると東京ディズニーランドの光りのパレードのような光景がここかしこで見受けられます。2ケ月前の10月末日はハロウィンというお祭りがありましたが、その時のデコレーションもすごいものでした。ハロウィンは盆と正月が一緒になったようなお祭りで、子供達が仮装して近所をまわってお菓子をもらったり、家を気味の悪い物で飾り付けたりする習わしがあるのですが、庭をにわか霊園に改造してみたり、玄関に棺桶をおいたり、窓という窓に人口の蜘の巣をはわせたり、まさしく「楽じむことに遠慮はいらない、いいじゃないの幸せならば」の世界がここにありました。

メルティングポットという言葉で代表されるように、移民の国アメリカには様々な人種、習



慣が共存しています。どうみても中身はインド人、イタリア人、メキシコ人なのに、当り前ですが皆アメリカ人なのです。どこからみても日本人なのに日本語を喋らない人に会う度に、あぁ今私はアメリカにいるんだなと実感しています。ですから一口に「アメリカとは」とか「アメリカ人とは」とか言い難いところがありますが、アメリカ人は概して「シンプルでハデなもの」を好む傾向にあるとは言えると思います。クリスマスやハロウィンの飾り付けをみてもそうですし、人々の洋服の色合いやデザインをみてもそんな気がしてきます。「ウウーン」とうなるより「ワーきれい、すごい」といったシンプルな感想をもつものが多いのです。いろいろな民族が様々な価値観を持ちながら一つの国に生活しているわけですから、誰からも理解しやすくまた胸打つものが好まれるのかも知れません。学校のカリキュラムも地域差があったり、同じ学校内でも先生によって授業内容が全く違うこの国にいると、何でも均質化されている日本がなんだか「特殊」に見えてしまう今日この頃です。

こちらはすでに朝晩は零下にまで気温が下がり本格的な冬を迎えております。雷や雨も日本のものよりかなり過激で、先日の嵐ではあちこちで大木や電柱がなぎ倒されたりしました。日本は現在不景気の風が吹き荒れているようですが、くれぐれもお体に気を付けて御活躍下さい。

著書特別頒布終了のお知らせ

会報24号でお知らせしました、システム監査事例分科会の研究成果をまとめた著書、
「システム監査の基礎と実際
— システムの健康度をチェックする」
の「協会補助付き」による特別頒布は、ご好評のためほぼ目標数に達しましたので、平成5年2月20日受付分をもって申込みを締め切らせて頂きます。

ただし、「協会補助なし」（送料別で、一冊2,142円）については継続して実施します。

通信員便り

「東北地区」

福島県：No.238　藤本匡弘

上野より在来線では 130kmともっとも早いスピードを持つ常磐線スーパーひたちに乗り、心地好い揺れに飽きてまいりますとおおよそ2時間になります。右手に海がチラホラ見えてきて、県境の短いトンネルを2つ3つ抜けますとそこは福島県いわき市です。列車は最初の小さな田舎の駅「勿来駅」に到着します。

駅のプラットフォームの本当に目立たないところに

『吹く風を　勿来の関と思へども
道もせに散る山桜かな』
<源　義家>

の句が書かれた白い看板があります。これを見る人は乗降客の3％ほどだろうと思います。

日本北三大関所とは「安宅の関」、「白河の関」、そして「勿来の関」をいいます。

勿来駅から西（東京）の方に2つの重なった小高い山が見えます。向こう側の山に「勿来の関跡」があります。海抜は 100メートルぐらいでしょうか。勿来駅から歩きますと途中から登りとなるものですから30分は掛かるでしょう。道中は残念ながら見晴らしが良くないのでタクシーをお勧めします。5分も掛かりませんからワンメーターです。

関の入口にさきほどの句を詠んだ源義家の馬に乗った銅像があります。記念撮影はここだけかもしれません。ここから本当の関跡までチョット足下の怪しい坂道を登ってゆきます。実は何にもないんです。幾つかの碑とチッチャな鳥居と東屋があるだけなのです。そこから太平洋が眼下に見渡せたら、いまどき、さぞ有名な観光地になっていたことでしょう。

こちらでは「勿来の関」を利用した街おこし事業が地元青年会議所のメンバーによって進められています。関跡の近くに歴史博物館を造ったり、西暦2000年にオープンするタイムカプセルを埋めたりのモニュメントづくりをやっています。また、句に出てくる桜を名所にしようと樹齢50年位の桜を手入れしたり、苗を植えたりして、春に「桜まつり」も開催します。時代まつりにならった武者行列をはなばなしく行うようになりました。どうも天のいたずらか、ここ2年間は雨にたたられて中止の止むなきにいたっております。全国あちらこちらで同じ趣向のまつりが模倣されるものですからいまいちであることは否めません。

源義家は頼朝、義経のおじいさんにあたります。さきほどの句は、かって義家が奥州征伐にいく途中、この勿来の小山から馬に乗って北にくだってゆく時の風情を詠んだものだそうです。「ああ、ここまでやってきてしまったか」とため息をついたんじゃないかなあと思える句です。

勿来とは『来るで勿れ』と読むんです。義家の当時は、ここから北がまだ蝦夷地だったのです。これ以上来ると命はないぞとの警告の意味のある地名なわけです。

いわき市は四方50kmの日本一広い面積を有する市です。東京都と仙台のちょうど真ん中に位置します。風光明媚で四季折々の海の幸、野の幸、山の幸が味わえる空気の澄んだ土地です。冬は東京よりも雪の降ることの少ないところです。夏は浜風が吹いて非常に涼しいところです。太平洋の水平線が曲線であることも発見できます。磯釣りのメッカですし、小名浜港にいけば岡釣りも可能です。元朝の初日の出も一見の価値があります。

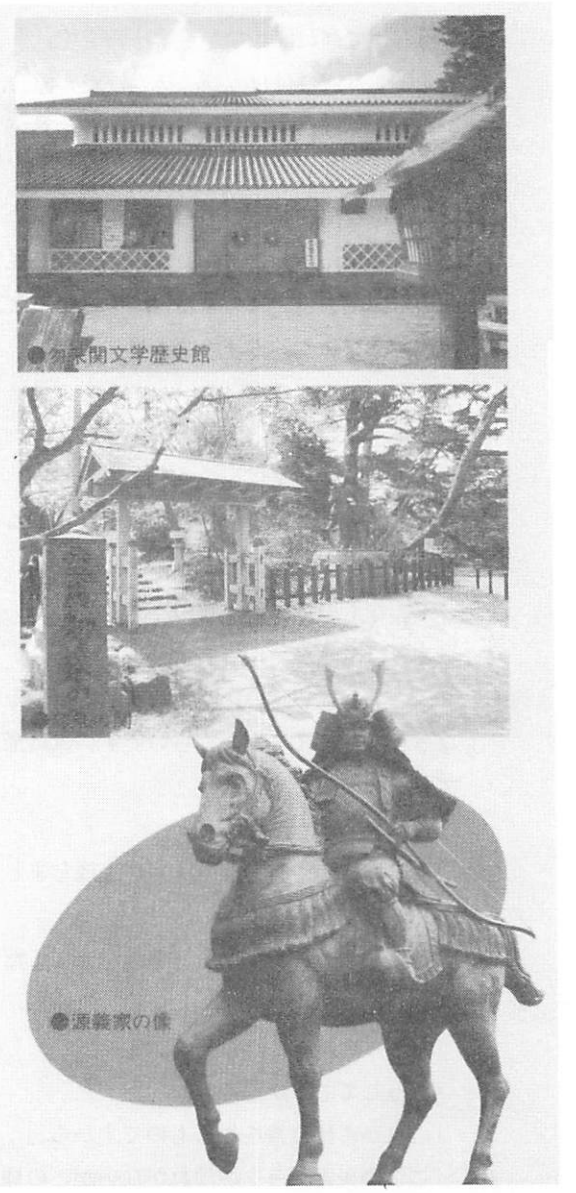
このように環境条件のすばらしく整ったいわきが、実は、なかなか発展しないのです。人口

は36万人とぜんぜん増加しません。本当だったら仙台よりも発展していてもよい位の地の利なのですが？。どうも外からの人を心底受入れる人情に欠けるからではないかと偏見をもっているのは小生だけではないように思います。小生は京都生まれの大阪育ちです。この地にきて妻をめとり、墓までつくっております。すでに16年も暮らしておりますので自分では地元民だと思っているのですが、なんかチョット違うんです。

現在、小生はチッチャな経営コンサルタント事務所を営んでおります。実力が無いせいか、いわきにクライアントはおりません。もちろん、市や商工会議所などの仕事はやっておりますが民間企業のお手伝いは残念ながらやっておりません。ちゃんと1戸建ての事務所を構え、建物のパラペットに事務所名と一緒に中小企業診断士、システム監査技術者の宣伝もいれておるのですが反応はありません。ごくごくたまに「何をやっているところなんですか？」という質問を受けることがありますが、なかなか巧く質問に答えることができないことがあります。ですから、仕事は北は旭川から南は鹿児島まで日本をみごとに縦断して「トラさん稼業」に専念しております。いわきにいるのは月に5日あればよいほどです。

本来、当地でシステム監査の普及に努めるべく任務があるようですが需要のほうが種子の段階です。言い訳がましいですが、たった一人での維新はなかなかむずかしいですね。

アウトソーシング、ダウンサイジングの時代、東京から高速道路を使って1時間半、列車で2時間の自然環境抜群、バブルの影響の少なかった土地柄で地価も超破格値です。どうですか、この地にビジネスごとお越しになりませんか。



いわき市勿来関文学歴史館
パンフレットより

「中国地区」

№295　桑原英明

通信員として遅ればせながら第一報です。

平成4年2月27日付日本システム監査人協会名簿を見ますと広島にも私以外に4名の会員がいらっしゃるようですが、現在のところ、お互いに連絡がとれていないので支部活動といったものはありません。そこで私のシステム監査経験に基づく雑感を肩肘はらずに書いてみました。

……システム監査迷珍問答集……

1. 「このシステムのドキュメントをまず見せてください。」
   「ドキュメント？」
   「ええ、システム仕様書とか、プログラム仕様書とかいったものです。」
   「そんなものはありません。」
   「えっ、全然ないんですか。」
   「システム構想時のたたき台の図と初期のファイル・レイアウトぐらいです。後は全て私の頭の中です。」
   「……」
2. 「お陰様で、やっとシステムが完成しました。」
   「それはよかったですね。早速見せてください。」
   「ちょっと待ってください。」
   「どうしてですか。」
   「これから仕様書を作るものですから。」
3. 「ここの入力データの洩れがないかどの様にしてチェックしていますか。」
   「していません。」
   「どうしてですか。入力データが完全でなかったら、結果は保証されないでしょう。」
   「そんなことはありません。だってそんな事になったら、会社の事務処理上困るでしょう。だからそんな事態は起こらないんです。」
   「……」
4. 「この処理結果のデータが次の処理へ全て渡されていることをチェックしていますか。」
   「そんなことは自明の理です。だってＯＳが保証していますから。」
5. 「先生。うちのシステムを見てください。コンピュータてやつはよく分からないものだからシステムの中はブラック・ボックスですよ。」
   「わかりました。でも、それなりのコストがかかりますよ。」
   「コスト？　今までも監査料払っているんだから、その範囲内でやってくださいよ。」

＊＊コメントーー上記は、実際の会話ではありません。私の経験を基にこういう事もあるかなと考えて組み立てたものです。

私の現在の仕事は監査が中心です。監査をやっていると、経営トップの方や監査役の方から「うちのシステムはどうなっているのか。今のところはうまく動いているみたいだけれど。」という不安・懐疑？を耳にすることがよくあります。外部のこのような見方に対して、情報システム部門の方は意外と無頓着・クローズドであるように見えます。

その原因としては、過去からのシステム開発の都度にユーザー部門に対して内容の理解に努めてきたが理解してもらえなかったという失望のうっ積があるのかもしれません。または巷間言われるように、諸外国に対する説明不得手、自分を売り込むプレゼンテーション下手に見られる日本人の特性かも知れません。いずれにしても、もっとオープンであるべきと思います。それにはシステム監査人のような第三者にコミュニケーションの仲立ちをしてもらうことが有効なてだてとかんがえます。

私の現在やってみたいと考えていることは、情報システム部門から飛び出して、語弊があるかも知れませんが、現場に密着したシステム－現場から中に入り込む感じ－はどうあるべきかを追求することです。エンドユーザ・コンピューティングと基幹システムの有機的結合、ネットワークといわれているものでしょうか。ちょっと格好よすぎるか。

最後に広島の紹介。野球といえば広島カープですが、最近では若い人に人気のあるのはサッカーです。野球－オジン、サッカー－ギャルなんて、さてあなたはどちら？とにかく、昨年の広島であったアジア・カップではかなりのフィーバぶりでした。Ｊリーグのサンフレッチェ広島のフランチャイズなんです。もみじ饅頭なんてもうふるい？

一度、広島にきてみんさい。では、また!!

「山陰地区」 ― 神話の古里から ―

山陰地区通信員　No.357　坂井義雄

予想していたもののこうして地区通信員便りを依頼されると、はたと困ってしまいました。

山陰地区と言っても分からない方がほとんどでしょうから、私の住んでいる山陰地方の説明から始めたいと思います。

山陰地方とは中国山地をはさんで、南側の瀬戸内海沿いが山陽地方であり、広島県、岡山県、山口県があり、山陰地方は反対の北側、つまりは日本海沿いにあります。島根県と鳥取県の２県で人口は僅か 130万ほどです。島根県は縁結びの神様、出雲大社があり、鳥取県は中国地方の最高峰の大山と鳥取砂丘があります。

山陰で有名なのは？過疎と高齢者の多さ、それに軽自動車の割合が非常に高い……、つまりは経済活動は余り盛んではありません。しかし住み易さにおいては昨年は島根県が全国で第４位でしたから、歴史と自然、きれいな空気etc、本当に豊かな人生を送るには最適な環境ではないのでしょうか。

私の住んでいる島根県の県庁所在地の松江市は国際文化観光都市で“水の都”と呼ばれ、これまたヤマトシジミで有名な宍道湖のほとりにある静かで美しい町です。人口は僅かに14万強です。

ただし、交通の便は悪く、山陽と山陰を結ぶ高速は途中迄開通しましたが、完全開通には平成９年までかかります。松江－尾道線も平成９年開通の予定でやっと土地の買収に入った段階です。あと５年くらいは我慢が必要なようです。

当地も情報処理に関しては高校、専門学校と色々学ぶところは増えたのですが、何と言っても経済活動が盛んではありませんから殆どが県外に就職をしてしまいます。島根県では東部で高卒の県内就職率が49％、西部では30％を割る様な状況です。大学卒に至ってはまず帰ってくる人は殆どありません。折角の優秀な人材が県外に流れて行くのを見るにつけ毎年いたたまれない気持ちになります。県も定住元年と題し若者の流出に歯止めをかけようと色々と施策を打ってはいるのですが、このままでは2030年には島根県の人口は今の77万から60万ほどに落ちるという予想もあります。

当然情報処理に携わっている人の数も少なく、システム監査技術者試験合格者は島根県では私が最初であとは昨年度合格の当協会会員の吉岡さん位のもの。当然活動は全くなく、中央との距離も有るため通常の協会の活動に参加することは絶望的です。最近の試験の合格者も２年に１人くらいですからこの調子では山陰支部を正式に設立するには21世紀を待たなくてはならないようですね。

しかし、当地区でも情報化の速度は早く小売

業のＰＯＳは当り前として、受発注はＥＯＳ化されています（私の業界の話で申し訳ないのですが）、倉庫も単に保管機能から今は統合化されたコンピューター制御の物流センターに変貌しています。小売業の多店舗化に対応するため、また物流センターへの多大な投資に耐えるため業界の再編集が進み、全てにおいてコンピューターが中心となり、進んだ戦略情報システムを作りだし人間のカンと足による経営から、完全なデーター管理経営に移りました。

よってこの地方においても、システムのダウンは会社の命運を分けることになりますし、何と言ってもコンピューターに対する知識が中央よりもかなり遅れていますから、有効なシステム投資のためのアドバイスなどが求められています。ですからシステム監査と同時にシステムに対する啓蒙が一番の仕事ではないかと思っています。システム化に対応するだけの資本のない弱小小売、卸の為の地域ＶＡＮの設立とか……こういった地方の情報基盤の活性化にシステム監査技術者として役に立てればと微力ながら努力しています。システム監査本業として仕事が営めるくらいになれば良いのですが当分は期待できず今は自分と、意志を同じくする人の能力を高められれば、と思っています。協会に入っていることで中央の情報が獲られ、何とか孤立しないでいられることが唯一の救いでしょうか。

全く協会の活動とは関係のないことばかり書いてしまいましたが、次回に投稿する時までには何らかの活動を報告できるように努力したいと思いながら、今回の通信員便りを締めさせていただきます。

第20回研究会報告

杉山育央氏「ダウンサイジングへのアプローチ、これからの展望と課題」

No.310　柳原俊郎

去る10月20日（火）の夜、第20回研究会が開かれた。今回は、㈱オフィスサンシャイン代表取締役杉山育央（すぎやまやすお）氏による「ダウンサイジングへのアプローチ」。現在最も注目を集めているテーマの一つであり、時宜を得た素晴らしい企画であった。会場の監査法人トーマツＡ会議室は 150人余りの熱心な参加者で埋まり、会員各位の関心の高さが窺えた。

杉山氏は過去７年間にわたり様々な企業でパソコンＬＡＮの構築に携わってこられた経験豊かな実務家であり、今年ソフトバンクから「パソコンＬＡＮでどこまでできるか」（¥1800）という著書も出版されている。当日はその一節も織り混ぜ、時間を一杯に使って熱弁を奮るわれた。多くの示唆に富むその内容は到底限られた字数では紹介しきれない。そこで杉山氏に、改めてダウンサイジングに取り組む場合のポイントとなる事項を三つに絞って挙げて頂いた。以下にその概要をご紹介する。

1. ダウンサイジングは事業戦略・経営戦略を実現する重要な手段として位置付けよ

ダウンサイジングはコストダウンの手段として取り上げられることが多いが、そのような捉え方では失敗する。従来の情報システムが業務システムだったのに対し、ダウンサイジングはＧＵＩに立脚した使いやすいソフトウェア、画像処理を始めとする豊富な周辺機器等、安価でオープンな技術シーズを積極的に取り入れた戦略情報システムである。つまりダウンサイジングはＳＩＳに直結するモノ

なのである。例えば、時間の短縮、情報サービスレベルの向上、マネジメント領域の拡大等、エンドユーザー自身の発想から生み出された事業戦略・経営戦略に直結するテーマを自ら実現できる可能性がある。

2. 情報システム部門自らが変身せよ

ダウンサイジングによる効果を生み出すためには、情報システム部門には従来のシステム構築中心の考え方を捨て、エンドユーザーを支援する全社的なスタッフ機能という役割が求められている。具体的には、事業戦略・経営戦略のコンサルティング、推進のための基盤作り（ハード、ソフトの交通整理、データベース管理・統合）、ユーザー教育によるキーマンの育成、各部門での活用状況の把握等が重要な業務として位置付けられる。

3. ダウンサイジングのツール、特にソフトウェアは心中する覚悟で選択せよ

データベース、４ＧＬ、ワープロソフトはエンドユーザーの情報武装化のための要となる重要な道具である。ハードの変更は簡単だが、ソフトの変更には多くの時間と資源が必要となるため、間違ったソフトの選択は大きな失敗要因となる。非定型的な業務にも十分対応できる、オープンで使いやすいツールを全社で統一的に導入すべきである。

第21回研究会感想文

平成４年12月10日

№418　森長　純二

今回のテーマは、ＬＡＮ構築の事例紹介であり、「ＩＨＩ横浜事業所内統合化ネットワークの構築」について、石川島播磨重工業の高橋佳裕氏よりご説明があった。ビデオを使用した説明等大変わかりやすく、聞きやすいプレゼンテーションであった。一方通行の説明で終らずに、多くの会員から時間ギリギリまでの質疑応答があり、改めてＬＡＮ、ＷＡＮが非常に関心の高いテーマだということが実感させられた。

私自身ＬＡＮの構築は未経験分野だけに、講師の方の説明、及び出席会員との質疑応答は大変参考になった。説明の中のＬＡＮを構築してみて得られた教訓、すなわち①ネットワークノード体系（アドレス管理体系、ノード管理体系）の必要性、②プロトコル統一の必要性、③スキルを持った技術者の養成、④セキュリティ対策の重要性、⑤ネットワーク管理者、組織の重要性といった事が実際に大規模なＬＡＮを構築した実務経験者のお話だっただけに活字になったものとは異なる価値がある。最近のシステム監査研究会は直接、システム監査に関係のない内容であるが、新しい技術についての情報及びそれに伴うリスク、注意事項、必要な対策等々、仕事に大いに役立つばかりでなく、間接的にいろいろな角度からシステム監査のあり方を考えていく良い材料であると思う。

最近の分散処理、ダウンサイジング、オープン化といった潮流の中でメインフレームを中心とした今までの情報システムを見直し、新たな情報システム・パラダイスが設定されようとしている大転換期だけに、新技術関連情報からは目が離せない。これらの新技術をスムーズに導入するにはどういう手順で進めるべきかという観点からシステム監査を考え具体的に提言するというアプローチも面白いのではないだろうか。

以上

第6回総会のご案内

先日、葉書でご連絡致しました通り、日本システム監査人協会の第6回通常総会を下記のとおり開催致します。

今回は、システム監査事例研究会の監査事例集出版に当たっての経過等を、研究会のメンバをパネラーに招いて語って頂くイベントを企画しています。総会終了後には、懇親会も予定しておりますので、万障お繰り合わせのうえ是非ご出席下さい。

また、会場は日本ユニシス㈱様のご好意により、昨年東京湾ウォーターフロントに新築なった同社本社の建物を使用します。

なお、ご都合で出席できない方は、過日お送りしました案内状の返信用葉書に委任状が印刷してありますので、必要事項を記入の上2月10日までにご投函下さい。

記

日　時　平成5年2月25日14時～19時

場　所　東京都江東区豊洲1－1－1
　　日本ユニシス㈱　本社ビル29階会場

交　通　地下鉄有楽町線豊洲駅　徒歩5分

連絡先　(03)5546-7664　(当日限り)

日　程

(1) パネル討論(14時～16時)
　システム監査の基礎と実際を出版して
　(システム監査事例研究会メンバ)

(2) 議事日程(16時～17時30分)
　① 平成4年度業務報告
　② 平成4年度会計報告
　③ 平成4年度会計監査報告
　④ 平成5年度事業計画
　⑤ 平成5年度予算案
　⑥ 平成5年度役員選出
　⑦ 倫理規程(案)審議

(3) 懇親会(17時45分～19時)
　会費 5,000円

災害復旧計画セミナーのお知らせ

監査法人トーマツ・システム監査部では、情報処理のセキュリティの専門家を海外から招いて、一般公開により「災害復旧計画セミナー」(Contingency Planningセミナー)を開催することになりました。

皆様お誘い合わせの上、大勢のご参加をお待ち致しております。

記

1. 日　時　2月15日(月)13時半～17時

2. 場　所　発明会館ホール　☎3502-0511(代)
　東京都港区虎の門2－9－14
　(地下鉄銀座線　虎の門駅徒歩5分)

3. セミナー名：Contingency Planning セミナー

(1) 我が国のコンピュータ・セキュリティの現況について
　システム監査部　代表社員　川野佳範氏

(2) Contingency Planning(災害復旧計画)について
　デトロイト・トゥシュ・トーマツ
　ニュージーランド事務所パートナー
　Mr. Ian Perry 氏
　(ニュージーランドの
　情報処理セキュリティの第一人者)
　(大意を伝える逐語通訳付き)

4. 費用　無料

5. 申込み
　P20の用紙に記入のうえ、郵送またはFAX願います。
　なお、定員(300名)に達し次第締め切らせて頂きます。

新規入会者紹介

番号	氏名	勤務先・所属	
510	髙原　亨	日立電子サービス㈱	システム技術部
511	栄口正孝	産能大学ＭＴＣ本部	主任研究員
512	吉澤都雄	産能大学ＭＴＣ本部	研究員
513	梶本政利	産能大学ＭＴＣ本部	研究員
514	野田俊克	㈱シーイーシー九州支店	システム開発部　主査
515	田中和光	九州電力㈱	長崎支店　配電課
516	斉藤禮三郎	㈱システム技研	代表取締役
517	荒添美穂	㈲インテリジェントパーク	社長
518	山本範明	ソニー㈱	半導体事業本部システム部
519	根来雪彦	日立ソフトウェア㈱	研究部計画Ｇ　ユニットリーダ
520	舘　瑛	三井情報開発㈱	事業推進部
521	藤井　繁	共同ビジネスフォーム	システム部長
522	髙橋秀夫	富士通㈱	企業ネ統部二ネーネ
523	大塚慶吾	ビジネス・ブレイン太田昭和	マネジメントコンサルティング部
524	堺　昌義	太田昭和監査法人　九州事務所	
525	坂田芳美	㈱東洋情報システム	ビジネスシステム開発４部
526	富山伸夫	呉羽情報システム㈱	常務取締役
527	木村浩昌	システムＱＵＡ	
528	都築保博	日本電気ホームエレクトロニクス㈱	ソフトウェア推進部
529	東海正敏	㈱テイ・エス・ケイ	システムコンサルティング部
530	陣内昭浩		
531	長谷川康一	アンダーセンコンサルティング	マネジャー
532	中西　悟	興亜石油㈱	情報技術部
533	良知　明	静岡放送㈱	情報システム局
534	細井一雄	日本アイ・ビー・エム㈱	教育システム営業
535	白井壽夫	住友特殊金属㈱	管理部情報システム室
536	芝野誠一	東燃㈱	監査部業務監査グループ
537	三島純一	雪印乳業㈱	情報システム部
538	吉田純一	ＮＴＴ九州情報システムセンタ	資材情報システム担当
539	中村　浩	㈱大沢情報センター	常務取締役
540	松本　望	㈱西日本銀行システム部	システム企画部門
541	大野　晋	ダイハツ工業㈱	情報システム部
542	村井英夫	㈱ＣＳＫ	金融システム第一事
543	武田公咲	三菱電気㈱コンピュータ製作所	パソコン端末製造部
544	阿萬悦子	㈱デンサン	教育センター室長
545	田中章友		
546	山田啓一		
547	五十嵐忠夫	工学院大学専門学校	電子情報課
548	鈴木　清	㈱兼松コンピュータシステム	システム運用部長
549	平川敏久	テラダイン㈱大阪営業所	カスタマーサービスグループ
550	吉田元永	㈱東芝	官公情報システム技術第一部
551	小川　隆	商工組合中央金庫	システム部　調査役
552	太田誠二		
553	萩原壽昭	萩原システムコンサルタント	
554	堀添　健	三鷹市役所企画部情報化対策室主事	
6001	平田哲夫	㈱日本マネジメントアカデミー	
6002	古川史朗	ＮＴＴデータ通信㈱	考査室システム監査
6003	中島重夫	日本コンピュータセキュリティ㈱	営業統括部長
6004	富岡芳文	㈱さくら総合研究所	システムコンサルテ
6005	木村裕一	㈱日立情報システムズ	システム監査室

……（切取線）……

監査法人トーマツ　システム監査部（小浜扱）行　（FAX 03－3457－1745）

Contingency Planningセミナー申込書

貴 社 名＿＿＿＿＿＿　所　在　地＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

お 電 話 番 号＿＿＿＿＿＿ FAX番号＿＿＿＿＿＿

ご出席者名＿＿＿＿＿＿　ご所属・役職名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

ご出席者名＿＿＿＿＿＿　ご所属・役職名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

ご出席者名＿＿＿＿＿＿　ご所属・役職名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

……（切取線）……

システム監査技術者募集

ARTHUR ANDERSEN
ARTHUR ANDERSEN & Co SC

●情報システムの内部統制のレビュー及びコンサルティング
または
●コンピュータ・セキュリティーのレビュー及びコンサルティング
の経験者

資　　格：大卒以上30歳位迄の男女
給　　与：当社規定により経験・能力に応じて優遇
待　　遇：昇給年1回（9月）、賞与年2回、住宅手当、出張手当、残業手当、退職金制度有り、交通費支給（実費、但し月額5万円迄）
休日休暇：完全週休2日制、祝祭日、年末年始休暇、慶弔休暇、出産休暇、有給休暇（初年度10日）、資格試験特別有給休暇有り
福利厚生：利子補給制度、各種社会保険（健保、雇用、労災、厚生）、定期健康診断、社員旅行、クラブ活動、他
勤務時間：9：00～18：00

国内外の多国籍企業を中心に、監査業務、経営業務革新、および海外進出、企業買収・合併、株式公開等の支援、その他会計業務、また中小企業のためのシステムコンサルティング等、企業の国際化および多様化した経営ニーズに対して、幅広いビジネスアドバイザリー業務を展開しています。
世界72カ国318事務所を持つアーサーアンダーセン&CO..S.C.と一体となって、地球規模でビジネスを展開しています。

井上斎藤英和監査法人
（日本アーサーアンダーセングループ）
〒107 東京都港区赤坂8-1-19 日本生命赤坂ビル
TEL 03-3403-4211
フリーダイヤル　お問い合わせ：人事部　仲村
0120-034211

発行所　日本システム監査人協会
発行人　川野　佳範
事務局　〒160 東京都新宿区西新宿3-2-11
新宿三井ビル２号館
㈱産能コンサルティング内
TEL. 03(3343)5820　FAX. 03(3343)5820
※ご連絡はなるべく郵便または、FAXでお願いします

会報担当（ご投稿、ご意見、ご要望は下記まで）
波田　直登　ＮＴＴデータ通信㈱
TEL. 03(3804)8267 FAX. 03(3804)8291
徳武　康雄　富士通㈱
TEL. 03(5210)5672 FAX. 03(5210)5953
今井　純子　公認会計士今井純子事務所
TEL. 03(3992)9381 FAX. 03(3992)2450